幸せな地域の暮らしについて考えるための10冊

Special Feature
Creating
"Well-Being"
Communities

そもそも幸福感とは何に由来するのか、幸福な暮らしとは具体的にどのような姿なのか、地域と結びつきながら個人の幸せを実現するには……。地域・暮らし・幸せ、3つの要素を結びつけるための先学の研究・調査、実践や考察は数多あります。そのなかから、今号の特集テーマについて考えるうえで参考となるであろう10冊を選びました。

Number 1

『暮らしの質を測る 経済成長率を超える幸福度指標の提案』

2008年、経済業績と社会進歩を計測する指標としてのGDPの限界を明らかにし、社会進歩を示す新たな指標や新しい計測方法を探ることを目的として設置された通称「スティグリッツ委員会」による報告書邦訳。「幸福度を指標化する」国際的な動きの、先駆的活動報告として押さえておくべき資料。

J. E. スティグリッツ、A. セン、J. - P. フィトゥシ著　福島 清彦訳
金融財政事情研究会／2012年

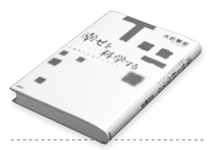
Number 2

『日本の幸福度 格差・労働・家族』

労働と家庭の２つの側面から日本人の幸福感の特徴を浮き彫りにする。このように数値化し分析されることで、労働条件や失業、地域や経済の格差、結婚と子育て等、現代日本人がまさに直面しているライフステージの諸課題と幸福との関係が、一般の人々にもより明確に認識されうる可能性が感じられる。

大竹 文雄、白石 小百合、筒井 義郎編著
日本評論社／2010年

Number 3



『幸せを科学する 心理学からわかったこと』

1990年代まで、心理学において幸福感の研究は、実証的には研究できず正当な課題とはみなされていなかったという。本書は、実証心理学をベースに、幸せとは何かについての比較文化的考察、幸せの測りかた、幸せに関わる諸要素、幸せな社会についてまで、多方面から「幸福感」に光をあてる。

大石 繁宏著
新曜社／2009年

Number 4

『GNH（国民総幸福） みんなでつくる幸せ社会へ』

幸せ経済社会研究所を主宰する環境ジャーナリスト、GNHに造詣の深い社会科学者、GNH研究所を束ねる国際開発コンサルタント。2008年、ブータンで行われた第４回GNH国際会議に同席した３人が知見と情熱を集結させ著したGNH入門の書。日本への応用の糸口は、まずここから掴む。

枝廣 淳子、草郷 孝好、平山 修一著
海象社／2011年

Number 5

『「幸せ」の経済学』

従来の経済学が提唱してきた「消費・所得の最大化が幸せをもたらす」という概念を、内外の統計データをもとに経済学の立場から問い直した一冊。所得・地域といった格差の視点からも日本の「幸せ」を浮き彫りにしつつ、いまだ経済成長率のみが注目されがちな日本の現状への危機感もうかがえる。

橘木 俊詔著
岩波現代全書／2013年

Number 6

『「地元」の文化力 地域の未来のつくりかた』

Uターン、Iターン、Sターン。人が移動するとき、そこにはどんな文化活動が在るのか。文化は、人を繋ぎとめる楔（くさび）となり得るのか。伝統にとらわれない特色ある文化を持つ地域を選びフィールドワークした実践的ケーススタディを通じて、人のつながりをつくる新しい装置としての文化観が立ち現れる。

苅谷 剛彦編著
河出ブックス／2014年

Number 7

『幸せのメカニズム 実践・幸福学入門』

科学技術の進歩は人を幸せにしたかと自問した元ロボット工学者が、アンケートをもとに４つの幸福因子を導き出し、「幸せ」になるための実践論を展開する。読者が自身の「幸福度」を測れる質問もついており、楽しんで読める一冊。巻末付録「幸福に影響する要因四十八項目」は先行調査の概要を知るのに便利。

前野 隆司著
講談社現代新書／2013年

Number 8

『"町内会"は義務ですか？ コミュニティーと自由の実践』

「育児パパ」として働く団塊ジュニア世代の著者が、ある日突然、町内会長に抜擢されて七転八倒する奮闘記。日本の村社会的な建前と本音の世界で苦しみながらも、最後は「ミニマムで楽しくラクな町内会」を実現。自身の体験に歴史や法的な位置づけ、統計データ等も交えながら町内会・自治会の今後のあり方を提言する。

紙屋 高雪著
小学館新書／2014年

Number 9

『河合隼雄の幸福論』

臨床心理学の第一人者によるエッセイ集。著者の日常から見えた人間関係、木や森などの自然、情報、物語など60の物事を「幸せ」を切り口に、想いを綴る。幸福を第一にして幸福になろうとすると、かえって失敗が多くなるのではないか、と自問するなど、本書に奥行きをもたせる至言も満載の好著。

河合 隼雄著
PHP研究所／2014年

Number 10

『幸福論』

幸福を論じる書籍のうち、とりわけ著名な一書。93の「プロポ（哲学断章）」が織りなす珠玉の言葉はどれも親しみやすい。幸福を求める努力をたたえ、人生への積極的な関与と強い意思を柔らかく奨めるが、それは単に自己のみならず「幸福になることはまた、他人に対する義務でもあるのだ」と主張する。

アラン著　神谷 幹夫訳
岩波文庫／1998年